

岩場のルールとマナー

1 チョークの跡はきれいに掃除

クライミング後の岩にはチョークの跡が残ります。その岩を去る時には、必ずブラッシングしてチョーク跡を掃除します。

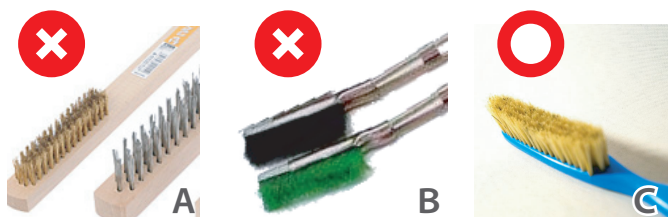
残されたチョークの跡は、次に訪れたクライマーがムーブを探る楽しみを奪うほか、景観を損なうとして特に観光地周辺で問題になっています。登った後は必ずチョーク跡を掃除して帰りましょう。

！ 使用するブラシについて

掃除の際に使用するブラシにも注意が必要です。

毛が金属でできているワイヤーブラシは岩を削ってしまうので使用してはいけません(A)。柔らかい毛のブラシでも柄の部分が金属のものも同様に岩を削ってしまうので使用してはいけません(B)。毛が豚毛などの柔らかいもので、柄がプラスチックか木製のものを使います(C)。

※毛がナイロンのものは、クライミングメーカーが販売しているものでも柔らかい岩質によっては岩を削ってしまいます。同様に、泥の付いた足のままスタンスを踏むと研磨してしまいます。自分のブラシが岩質に適合しているのか、行動が岩のダメージを誘発しないか、考えて行動しましょう。



！ 過度なマーキングは控えましょう

濃く書いたマーキングはブラッシングしても消えづらく景観を損なうと共に、過度なブラッシングによって岩のダメージも増加します。マーキングやチョークアップは掃除したあと目立たない範囲で、必要最低限に留めるようにしましょう。



2 原則的に伐採・焚火・火気は厳禁

岩場での焚火は原則的に禁止。ストーブ・コンロなどの火器や、タバコ(禁煙のエリアもあり)も十分に配慮すること。山火事を起こせばたちまち登攀禁止となり、地主の方はじめ地元の方々に多大な迷惑をかけてしまいます。お湯が必要ならば水筒に入れて持って行けばよいですし、火は緊急時のみ使用するようにして、岩場では火を使わないよう心がけましょう。

！ 携帯トイレを持参しましょう



排便後に使ったトイレットペーパーを燃やして大規模な山火事が発生した事例があります。使用後のトイレットペーパーも携帯トイレと一緒に入れれば良いでしょう。岩場での糞尿問題も以前から取り上げられています。携帯トイレは1回分でも200円ほど。アウトドア

用でも実にさまざまなアイテムが販売されています。これさえ持ち歩いていれば、腹痛の不安とも山火事の不安ともおさらばです。

自由とは、何かをやる環境があり、何かをやるスキルを持ち、何かをやり遂げる責任を持つことです。自分の行動の全てに責任を持てなければ、好きな岩を自由に登る資格はありません。自由に気ままにロッククライミングを楽しむ為に、岩場でのルールとマナーを確認しましょう。

3 あいさつ

地元の方に会ったら、「おはようございます」

「こんにちは」程度の挨拶をしましょう。車を停める場合は「ここに停めていいですか？」くらいは尋ね、クライミングをしに来たことについて積極的に説明しましょう。地元の方々にとっては、他県ナンバーの車が押し寄せ、大きな荷物を背負った見知らぬ人にな言で通り過ぎられると、やはり不安になるそうです。

4 無断駐車・迷惑駐車はしない

登攀禁止などの問題に発展する可能性が特に高いのが駐車の問題です。事前にクライミング時に利用できる駐車場を調べ、細心の注意を払って駐車するようにしましょう。人の迷惑でないか、危険ではないか。満車の場合は、路上駐車・迷惑駐車はせず、転進も含め判断しましょう。

5 最新の情報を確認

100岩場などに記載されている情報は最新ではありません。使用可能だったはずの駐車場が駐車禁止になっていることは頻繁にあります。行く前には最新の情報をチェックして、駐車場の使用可否などを把握し、各ローカルエリアのルール・考え方を尊重した上で行動するようにしてください。

— 主なアクセス情報サイト —

JFA (日本フリークライミング協会)
<http://freeclimb.jp/news/news.htm>

CCP全国アクセス問題情報一覧
<http://www.cleanclimbingproject.com/takeaction/>

6 指定地以外での幕営をしない

原則的に、キャンプは指定地以外では禁止です。車中泊が禁止のエリアも多く、指定地以外で宿泊する場合でも、なるべく岩とは離れた場所、かつ近隣に住居のない場所を選ぶようにしましょう。

前夜に訪れたクライマーがトイレの中を占有して宿泊して、トイレや駐車場が利用できなくなった事例もあります。

余裕があれば近隣の宿泊施設を積極的に利用できれば、地元への還元という意味も含め、最良の方法です。

7 地元商店を積極的に利用

現地の商店や、食事処を積極的に利用することも、岩場を利用する時のマナーのひとつではないでしょうか。地元商店や飲食店は、そこでしか得られないものでもあり、地元のお店や宿泊施設を利用することで岩場周辺の方々とのコミュニケーションもとれ、クライミングについて理解してもらえるきっかけになるかもしれません。クライマーが岩場へ訪れることも歓迎され、地元とクライマーの良い関係が築かれていくことでしょう。岩場で自由に登ることは、その岩場のクライマーの責任を全ての人が背負っているということです。地元の方から見れば、あなたがクライミングの全て。積極的に良いコミュニケーションができれば素晴らしいと思います。